

本来の姿の自然を次の世代に引き継ぎたい

むらた  
**村田** やすゆき  
**康行さん** (滝ノ入)



第17回国際バラとガーデニングショウ  
ガーデン部門大賞 (国土交通大臣賞) 受賞

■国際バラとガーデニングショウ

5月中旬に所沢市の西武プリンスドームで開催されている「国際バラとガーデニングショウ」は、毎年20万人前後の来場者でにぎわっている。そこで行われるコンテストのガーデン部門で、今年、滝ノ入在住の村田康行さんが、見事に大賞 (国土交通大臣賞) を受賞した。

「自分が考え、作成した庭が評価され、ましてや大賞を受賞できるなんて、嬉しい反面驚きでした。作品作りを手伝っていただいたすべての人に感謝したいです」と村田さんは、受賞の感想を述べてくれた。

■自然環境の変化に危機感

村田さんが生まれ育った滝ノ入地区は、町西部の山地にあり、昔からゆずの栽培が盛んに行われてきたのどかな里山だ。しかし村田さんは「今でも滝ノ入には、多くの自然が残っていますが、自分が子どものころと比べると、多くのものが失われてい



村田康行さん (37) と妻の真由美さん

ます。例えば、ホテルやミヤマクワガタなどがそうです。それまで身近にいた生き物を見かけなくなりまして」と、自然環境の変化に危機感を感じているという。

■人と自然の共存

村田さんは、20歳の時に庭づくりを生業にしようと考えたという。働きながら学費を稼ぎ、自力で専門学校に通い、庭づくりを学んだ。「当時、ガーデニングがブームであったというところもあるのですが、地球温暖化がメディアでもよく取り上げられていて、自分でも何かできないかと考え、この仕事をしよう」と決断しました」と話す。

村田さんのコンセプトは、「オーガニックな庭づくり」。それは、農薬や化学肥料を使わずに、人と植物や昆虫、動物、そして微生物までもが、一つの循環のなかに育まれる調和を、「庭」という空間に作りだすことを意味しているという。村田さ

んは、「人間がこれまで行ってきた行為を見直し、人と自然が共存できるようにしたい」と考え、庭づくりをする際には、できる限り自然のエネルギーを利用し、エコロジーで循環できる素材を使用している。

「現在、急激に地球温暖化が進んでおり、生態系の乱れにも大きく影響を及ぼしています。これからは、人と自然の共存について、真剣に考えなければなりません。今回、国際バラとガーデニングショウに出展した作品は「自然エネルギーの庭」というタイトルで、人と自然の共存をテーマに考えました」と話してくれた。

■次世代へ引き継ぎたい

「自然の多い滝ノ入でさえも、昔とは自然環境が大きく変わってきています。自分の行っていることで、一人でも多くの方が人と自然の共存に興味を持ってもらい、本来の姿の自然を次の世代へ引き継ぎたいですね」と話してくれた。

地元滝ノ入で造園・ガーデニング・外構・エクステリア工事などを行う専門会社「シツラエ」を営む。茶会などのお客さまをおもてなすというの意義が込められている。  
※会社名「シツラエ」には、お茶席を意味する。  
http://www.situraa.co